



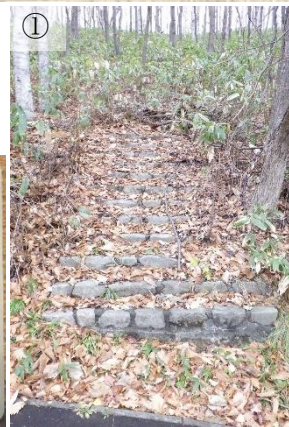
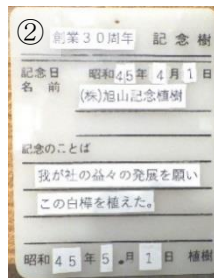
旭山記念公園の遺構や昔の名残り

旭山で今も見られる遺構や昔の名残りを集めてみました。番号は写真と共通です。

①造りかけの石段: 第1駐車場入口付近の階段を登ると、右側に13段で終わっている中途半端な石の階段が見えます。ここには記念樹の森まで続く階段が造られる予定でしたが、記念植樹の希望者が予想以上に多く、植樹する場所を少しでも確保するために造成が中止され、ここだけが残されたものです。

②記念植樹のプレート: 記念植樹にはプレートが掲げられていました。2002-08年の公園再整備の際に取り外されましたが、今でも木に掲げられたままのものや地面に落ちたものが見つかることがあります。

写真②は先月見つけた1枚です(文言は後付けの架空のものです)。



③開園当時の鉄柵: 第1駐車場西側斜面の記念樹の森では、柵の合間に鉄柵が見えます。開園当時からあるものですが、現在はそこに人が立ち入ることはなく、使われないまま残っています。撤去の予定は今のところありません。



④長い滑り台跡: 旭山記念公園は再整備で各所の様相が変わりました。遊具広場にあった長い滑り台はその昔人気だったようで、再整備で撤去された後も長い滑り台の話をよく耳にします。今では滑り台の上まで上る木段だけが残され、その横にあった滑り台は面影もありません。

⑤開通しなかった道路: 第1駐車場からアーチ橋をくぐって噴水広場まで続く道は、車がすれ違えるほど幅が広く、しっかりと舗装されています。これは、開園前、界川から円山西町に抜ける一般道路の計画があったものが中止となり、先に造られていたこの部分だけが舗装道路として残されたものです。



⑥旧道の石垣: 遊具広場の森の散策路の脇に石垣がありますが、これは昔の作業用林道の名残りです。冬にスノーシューで歩くと、斜面に平らな部分があり、昔そこに道があったことがよく分かります。

⑦動物の石像: 風の丘のあずまやがある場所には開園時、馬、羊、豚、蛙の石像が設置されました。再整備であずまやを造る際、これらの動物の石像は、馬、羊、豚(7A)があずまやの横に、蛙(7B)だけが離されて楓の沢に移設されました。



①③⑥は、木々が落葉し積雪が本格化する前の11月には見やすいです。

レストハウス「ぽるく」2024年11月

気温もグッと下がり冬がやってきましたね！ 令和6年度の営業は11月10日(日)をもって終了します。

今年もたくさんの素敵なお客様とワンちゃん達に出会えて

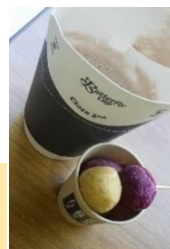
営業できた事、嬉しく思います。

また来年お会いできるのをスタッフ一同楽しみにしております！

それまで皆さんお元気で～

ありがとうございました。

今年度の食べ飲み収め→
ホットココアとおさつドーナツ



旭山野鳥メモ 65 シメ

シメ Hawfinch *Coccothraustes coccothraustes* スズメ目アトリ科
北海道では1年中見られるが、同じ個体がずっといるわけではなく、北海道の個体は秋に南に渡る一方、シベリアなどより北方から渡って来る個体が北海道で越冬し、結果的に通年見られると考えられている。

旭山では5月後半から8月まで見られないが、7月に幼鳥連れで現れたことがある。冬期は個体数は少ないが見る機会は多く、春と秋には10羽以上集まることもある。あまり見られない年もある。

ある程度の広さの開けた場所が近くにある森林で繁殖。多くの野鳥は環境によりいるかいないかを推察できるが、シメだけは同じような環境でもいたりいなかったり、ちょっと不思議な出方をする。冬は低地で過ごす。

地鳴きは「シーツ」「ツツ」で、後者はアオジの地鳴きに似ている。図鑑には囀りも記されているが、めったに囀りせず、聞いたことはない。

古語で「め」は鳥を表し、「しー」と鳴くことからシメと名付けられたという。

雄(右写真上)は嘴の付け根と目の間の帯が黒く、雌は茶褐色で黒くない。

幼鳥(右写真下・撮影地新得町)は頭が緑色で巣立ち直後は体に茶色みがない。

植物の種子が好物で、太い嘴で割って食べる。ころんとした体つきの割に尾羽が短い。

警戒心がとても強く、とまっている木の25mまで近寄るともう逃げてしまう。それでも採餌中に近くに寄れることもある。目つきがきついとよく言われるが、見られると嬉しい身近な野鳥であることに変わりはない。



2024年11月の野鳥トピックス

- シマエナガ：10月は森の家周辺によく出ていましたが11月は？
- ツグミ：10/7 この秋初認、園内での観察機会はまだ少ないです
- クマゲラ：今秋は園内で見られる機会が多く雌雄どちらも来ています
- ヤマゲラ：園内でときどき見られています
- シメ：学びの森周辺で比較的によく見られていますが数は少ないです
- キクイタダキ、キバシリ：時々見られるようになってきました
- ヤマガラ：イチイの種子を食べによく来ています
- ミヤマカケス：この秋はまだ見られていないですが、今冬は旭山には来ないかもしれません・・・



旭山の紅葉2024

今年の紅葉は、色づき具合がまばらで、赤い葉はやや少なかった印象です。

※左上から〇回り
・幌見峠の鉄塔
・旭山記念公園でいちばんきれいに色づくヤマモミジ
・新桜並木と円山
・ハウチワカエデ「しもやけ」部分的に赤くなった葉
・色づきがまばらなアカイタヤ
・真っ赤に染まったヤマモミジ



「アカゲラ通信」 第133号 2024(令和6)年11月1日発行

(公財)札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所

<https://www.sapporo-park.or.jp/asahi-yama/>

〒064-0943 北海道札幌市中央区界川4丁目

電話 011-200-0311 (金・土・日・祝日 10時~16時) FAX 011-200-0351



公式サイト